

ペットボトル5本から100枚作れる再生名刺、木目も鮮やかな間伐材の名刺。個性的な1枚を作り、使用する人も増えている。注目を集めている環境問題を考えた「エコ名刺」や、町おこしのために工夫をこらしたユニークな名刺など、道北の名刺事情を紹介する。

## エコ重視

# ペットボトルや 間伐材を原料に

表面はツルツルとしたものがあり、じつくと持ってみると、まるでプラスチック製トランプのよう。企業としても環境問題への取り組みで、ペットボトルの再生材を100%利用した名刺だ。四月から社員全員で使っている旭川市内のIT企業「セクナ」の山田真己社長は「お客さんを引きつけ

るものがあり、じつと持ってみると、会話が弾むという。この名刺は日新堂印刷（札幌）が二〇〇三年から販売。昨年の募金は一年間で約二十二年の年（〇五）の二倍になり、利

用者は増えている。同社営業部は「人と違う名刺を求めている人が増えている。エコを考る人も多くなっている。自然環境について考える輪が広がればいい」と期待している。

一方、間伐材を材料にした木の「エコ名刺」を使っているのは、「森林の町」をうたう下川町森林組合。町面積の約九割が森林。同組合は「率先して間伐材を利用しよう」と五年ほど前から始めた。



㊦下川町の基幹産業をアピールするため間伐材で作った名刺㊦ペットボトルを素材にした「再生ペット名刺」